



三浦Cocoonは  
こちらから



観光客に人気の「みうらレンタサイクル」のサービスづくりにも関わった佐々木さん。赤い電動自転車のおかげで、車やバスでは得られない豊かな時間が過ごせると好評だ。現在は「三浦Cocoon」というプラットフォームの立ち上げに関わり、バラバラだった三浦半島全体の情報を集約。新しい「三浦リゾート」のブランドを創出するために日々奮闘中

2020年、日本中を席巻したコロナ禍。緊急事態宣言によって首都圏では長期に渡って外出自粛を求められた。観光のための移動はもろろん、「テレワーク推進」の呼びかけによって通勤も制限されたが、鉄道会社も大きくそ

**あつという間に社会が変化した**

2020年、日本中を席巻した

コロナ禍。緊急事態宣言によって

首都圏では長期に渡って外出自

粛を求められた。観光のための

移動はもろろん、「テレワーク推

進」の呼びかけによって通勤も制

限されたが、鉄道会社も大きくそ

**三浦の観光は京急と共にあり**

京浜急行電鉄。通称「京急」は、東京の玄関口品川から三崎口までを結ぶ。沿線には羽田空港や横浜もあり、高い利便性を誇る。キヤッチーな赤い電車は、地元民にとって象徴的な存在だ。

三浦市の柱である「観光業」

も京急に支えられてきたと言っ

ても過言ではない。三崎まぐろ

やアクティビティをお得に楽し

める「みさきまぐろきっぷ」を

2009年に発売し、多い年では

年間20万枚を売り上げる。長きに

わたり三浦半島全体の観光事業

に携わってきた京急の佐々木さ

んと、昨今の社会情勢を絡めなが

ら、三浦のこれからを語り合った。

移動を変えると、観光も変わる

ここ数年、京急が目指すキー

ワードに「Maas」がある。Maas

の影響を受け通勤・通学客だけでなく、観光客も大きく減少した。「今までも『働き方が変わる』と言われてきましたが、コロナ禍によってその変化が10年早まったと我々は考えています。一度テレワークを体験した社会は、急速にテレワーク化していくと予測しています。『元どおりに戻る』と考えているのはダメなんです」と佐々木さんは冷静に語る。

自社の電車やバスが走る土地

と共にあり続けるのが鉄道会社

の運命。その縛りの中で、どうい

う展望を描いているのか？

「2027年のリニア開業に向

けた品川の再開発のほか、羽田

横浜でも開発が進んでいます。三

浦半島においては鎌倉・逗子葉山・横須賀・三浦を総合的に捉え、「都市近郊リゾート三浦」として今まで以上に強力にブランド化していきます」

略で、あらゆる交通手段をクラウ

ド化・一元管理する、まったく新

しい移動の概念だ。日本での知名

度を急速にあげている「Uber」や、

自宅の駐車場を他人に時間貸し

するサービスも、Maasの国内事

例の一つだ。京急としてはMaas

と三浦半島の観光を大胆に結び

つけていきたいと模索する。

「実現すれば、駅やバス停周辺で

完結しがちだった観光がより自

由に、広範囲になる。不便な場所

が観光地化されたり、混雑が分散

されたり。移動が変わると、観光



京浜急行電鉄株式会社  
佐々木 忠弘さん  
勤務20年以上になる佐々木さん。京急百貨店やエキナカの流れ、広報などで経験を積む。2018年には三浦半島事業開発部に所属。地元の人と密なコミュニケーションをとりながら、新しいサービスやプラットフォームを0から作り上げてきた。

Column  
変わりゆく、人々の暮らし  
京急と共に三浦の未来を考える

鮮やかな赤い電車「京急」は、地元民にとって象徴的な存在。たくさんの観光客をこの地に運んでくれた京急と共に、これからの社会のこと、三浦のことを語り合いました。



# これから、 この街に暮らす君へ。

こんにちは、いしいしんじといいます。  
ふだんは小説を書いています。表札が三崎にある宇宙一の魚屋「まるいち」の店先にひっかかっている。生業としては、鮮魚店の店員でもある。と自分では思っています。

二〇〇一年から二〇一〇年まで、北条湾の埠頭まで息をとめて五秒ほどの、古い一軒家を借りてひとり住んでいました。

夜明けとともに起き、南向きの窓を開いて朝日を入れます。午前中いっぱい机にむかって、手品師やうなぎ女や大海をただようまぼろしの船の物語を書きます。たまに近所の子どもたちやおじいさんが、勝手に階段をのぼって「オーイ」とやってきます。お昼は「まるいち」にいて魚を物色、店主の宣さん、英くんらと冗談をいいあい、家に戻ってつづきを書く。

午後二時には仕事あがり。シュノーケルとフィンを籠に入れ、自転車で浜諸磯へ。一時間ほど素潜りで磯をめぐり、落ちていた貝を二、三個拾いあげて帰宅。二階の窓をすべて全開にし、風の吹きわたるなか、民俗音楽やポップ・ディラン、大瀧詠一のレコードを大音量で鳴らしつつ、魚貝をオヤツに瓶ビールの王冠を抜きます。日暮れには風格たつぶりの銭湯「高野湯」へ。知った顔の先輩に「おう、しんちゃん」「おめえ、生きてやがったかよ」なんて声をかけてもらったり。

夜はまるいちで買った魚を調理。アジの叩き、キンメの煮付け、自家製しめさば、てな定番から、ダツの塩焼き、ハコフグの味噌焼き、ホラ貝刺なんて珍品まで。ぬるく爛をつけ、地場の野菜のおしとし、酢味噌和えなんかともいただく。この時期、僕のからだの九〇％はまるいちの魚でできていました。

食後、二階で本をめくる。全開にした窓から夜風とともにカラオケスナックの喧噪が心地よく流れてきます。たまにはふらっと、はず向かいのバー

「ニューバッカス」を訪ね、父親がわりのバーテンダー、佐藤さんに夜中まで、昔の三崎がいかに途方もなかったか、という話をききます。

三崎は昔、マジ塗方もなかった。遠洋漁業はこの港からはじまった。あの時期、世界でいちばんにぎわった港町、といっても過言ではないでしょう。いまもその残り香はそこに残っています。とはいえ、住んでいるみな、昔の栄光にすがりついたりはしません。そんな暇じゃないし。ただ、ここに住む誰もが、三崎で生まれ育ったことにたしかな誇りをもっています。

三崎のみんなの心根、深情、バカ笑い、透明な涙のなかで、けっこうたくさんの本がうまれました。「プラネタリアムのふたご」「ポーの話」。「港、モンテビデオ」の舞台はまるまる三崎です。エッセイ「いしいしんじのこはん日記」は、引越した当初の日記をまとめたもの。「みさきつちよ」は、三崎で書いたエピソード、小咄、ほんとか、という実話を集めました。三崎に住んでいること自体、いま振りかえれば、物語のなかを生きるような日々だった。

七月半ば、海南神社の祭礼の二日間が、三崎の町のクライマックスです。みながみな、からだところを燃やし、神様とひととのあいだに、この日限りの橋をさし渡す。生きていくとそうでないひととが、木遣り歌の大声のなかでともにつながる。観光とは関係ない、人間の爆発。真正正銘、ほんものの、野生の祭。

平日でも、お祭の日でも、ぜひふらっと三崎を訪ねてみてください。古い町並を巡り、猫におどろき、魚貝を味わい、埠頭に座って海風を浴びる。足をぶらぶらさせているうち海のきらめきが全身に映ります。海南神社に商店街、高台から見おろす、港ぜんたいの景色。夕陽と風のなか、ふと、なつかしい気分に駆られたら、その瞬間、あなたはもう、三崎の物語に足を踏みいれているかもしれません。

## いしいしんじ

作家。大阪生まれ。現在、京都に在住。母港は三崎。著書に小説『四とそれ以上の国』（文藝春秋）『いしいしんじのごはん日記1〜3』（新潮社）など多数。2019年三崎の出版社アタン社から「みさきつちよ」を刊行。



「ない」ということは、「ある」ということじゃえん。

三浦市の「不動産事情」を不動産屋さんがまっすぐ語る

# ないものは、ない。



## 三浦市はほぼ島のようなもの

「半島」とはラテン語で「ほぼ島のようなもの」という意味だ。

三浦半島の最南端にある三浦市は周辺自治体の中でもっとも「島暮らし」に近い感覚が味わえる土地だ。空の広さ。太陽の温もり。海と山の新鮮な恵み。夜通し賑わう夏祭り。金田湾に昇る朝日と相模湾に落ちる夕日。一生懸命のんびりしている人々。そして人情――。

そんな島暮らしのメリットを享受しつつも、都会と陸続きなので物流コストが高いとか、医療体制が脆弱などといったデメリットとは無縁。島をいいとこどりした、東京にほど近い半島の一つだ。ただ「ほぼ島のようなもの」なので、こと住まい探しにおいては離島におけるそれをイメージしておいてほぼ間違いない。

そう、離島のように「ないものはない」。地元の不動産屋さんは多くはないし、駅近のタワーマンションもない（駅近じゃなくてもない）。

他に何がなくて、何があるの

「一軒家は幅が広くて、安いのは5万円ぐらい、高いのだと12万ぐらいかな」

けれど、家賃を7万円以上払うような場合はローンを組めば戸建てが買えてしまうので賃貸よりも売買物件を選ぶ人も少ないという。

「家を買う前に賃貸で何年か試してつて方も多いですけどね。物件を買う前に何年か暮らして環境を確かめようって」

## 住んでみないとわからないこと

「海に囲まれた半島だから風が吹くと強いんだよね。相模湾から南西の風が吹くと陸上にいるのに海上にいるんじゃないかってくらいだもん」

さらに自然の多い地区では虫も少なくないという。

それでも、とにかく安く住みたいという強者のためにこんな裏技を教えてください。

「バス便を利用する地区の築年数の古い物件を狙うことだね。居住エリアの際に行けば行くほど安いんじゃないかな。中には

か。三浦市のデューブな不動産事情を市内の不動産屋さんのひとつ「神奈川住宅」の小野寺伸次さんに伺いました。

## 顔の見える大家さんが多い

「土地持ちの農家さんが相続税対策でアパート建てたつてケースも多いんでね、玄関の前に大家さんが大根とかキャベツを置いてくれたりすることも多いんですよ。顔の見える大家さんってどういうの？ その辺りが一番の特徴かもしれないですね」

三浦市における賃貸物件の特徴を訊いたら、真っ先に返って来たのがこの答えだった。相場とか、間取りに関する答えを待ち構えていたこちらとしては肩透かしを食らって緊張が緩む。生まれ育った三浦で30年以上不動産業を営んできた小野寺さんの三浦訛りのせいもあつたかもしれない。

「オーナーさんが圧倒的に法人よりも個人なんです。法人さんの場合は完全に事業物件ですけど、個人がオーナーさんの場

ボットン便所の物件もあるけどね」

三浦市内で公共下水道が整備されているのは市全体の一部。残りの地区は物件ごとに浄化槽を設置している。トイレ自体はほとんどが水洗になっているが、古いままの物件には汲み取り式も残っている。都市ガスの普及率も高くないので、プロパンガスの物件も多い。

ひよっとして、インターネットが繋がらない地区なんかもあるのだろうか。

「それは心配ないですよ。そもそもテレビ映りが悪い地域もあり、ケーブルテレビが普及しているのでネット環境については心配には及びません」

## ないはあるということ

最後に、最近の若い移住者に見られる傾向について訊いた。「やっぱり住むだけじゃなくて、あたらしく何かを始めるつて人も増えてきているよね」

ないものは、ない。それはここで生きていく上でさほど必要で

合は、特に農家が大家さんの場合は幾ら儲けてつて話じゃなくて、情があるというか。損得勘定だけでやってないんですよ」

三浦市にこうした個人経営のアパートが数多く建てられたのは主に昭和40年代後半から50年代のこと。市の総人口が4万5千人から5万人へと右肩上がりだった時代だ。

「賃貸の相場的にはそういう古いアパート、いわゆる〇〇荘みたいなのが2Kとか2DKで3万円から4万5千円ぐらい。2LDKになると5万円から7万5千円ぐらいですね」

## 人が住める場所は案外少ない

広げた地図でエリアごとの情報を伺おうとしてさらに驚いたのは、市全体における居住可能区域の少なさだった。

「人が住めるのは市の面積の4分の1くらいですかね。三浦市は自然や畑が多いつて言われますけど、ようするに居住区域が限られているからなんですよ」

自然保護と生産緑地の確保と

はないものだからない、とも言える。ではそのないものが外部から持ち込まれたらどんなことが起きるだろう。たとえば、さつまいもを栽培していただけた島に酒造りの技術者が流れ着いたことで島焼酎造りが始まったように、離島の多くは海の向こうから持ち込まれたものとの融合で独自の文化を育んできた。ないものはないからこそ、あたらしい何かが生まれる。ないからこそ「あたらしい」とされるその余白がなにもかもがある都会に比べて大きいのだ。

「DIYしながら住むつて人もいるよ。古い家だから好きに使つてつていう大家さんも多いしね」

気がつくとも最後はまた顔の見える大家さんの話に戻つていった。「近くに住んでいる大家さんと顔合わせたりしているうちに人間関係ができてくるんですよ。都会じゃ大家さんの顔も見たことないなんて人もいると思うんですけど、三浦じゃそうはいかないつていうか」

損得勘定だけでやっていない三浦の大家さんたちがアパート

いう観点から市街化調整区域（市街化を抑制すべき地域）が多いのも三浦市の特徴だ。

## 利便性が高い三浦海岸エリア

数少ない居住地域を三浦市の玄関口となっている二つの鉄道の駅を起点に見ていく。ひとつは京急三浦海岸駅周辺のエリア。夏は海水浴客で賑わう金田湾に面した浜辺は駅から歩いて7分。商業施設も近い利便性の高い町で都内への通勤もしやすい。

「良く言えば便利だけど、それほど田舎らしくはない町かな。海はあるけどね」

小野寺さんは謙遜していたけれど、たとえば回転寿司ひとつ取つても新鮮な地魚で握られているので、都会のそれとは違う。金田湾に昇る朝日をバックにマリンスポーツを楽しんでから出勤なんてライフスタイルも可能だ。

「ただ、三浦に住もうつて人はそもそも駅近にこだわる人は少ないですよ」

経営に求めていること。それは人との出会いであり、ふれあいのかもしれない。

「おせっかいなんだよね、基本的には」。小野寺さんを始め、三浦の不動産屋さんたちが扱っているのは主にそういう顔の見える大家さんから直接仲介を依頼された物件だ。必然的に不動産屋さんごとの一点モノも多い。でも、心配ない。市内の不動産屋さんは多くはない。せいぜい一泊二日。のどかな景色や名物を味わいながら全部回り終える頃にはあなたも感じていられるだろう。「ないものは、ない」この町に漂うやさしい空気を。気づいているだろう。「ないものは、ない」からこそ本当の豊かさを。そして見つけるだろう。ここにしかにしかない大切なものを。「A.ote meai in ika naka」(あぢち探し求める必要はない。本当に大切なものはいつもそばにある)というのはハワイの有名なことわざだけれど、三浦市もきつとそうだ。なぜならここは半島、そう、「ほぼ島

のようなもの」なのだから。



サイトウ住宅が選んだ  
魅力的な三浦の物件例 **03**



海が見えて、駅も近い  
広々キレイなアパート

三浦海岸駅まで徒歩3分。新品エアコンつきでバルコニーから海が見えます。内装もリフォームされてファミリーでも住める広い空間が魅力。水回りもきれいで下水道が完備。海までも徒歩5分以内でアクセスと自然を両立し、コストもよく、歩いて2分のところにダイソーがあり、コンビニも歩いて行ける距離にあります。



【物件DATA】  
三浦海岸駅徒歩3分 | 間取りは3DKで広さは52.89㎡ | 家賃75,000円 | 築年数は29年

三浦海岸駅の改札を出てすぐ左!

サイトウ住宅

☎ 三浦市南下浦町上宮田 3259 栄屋ビル 1F ☎ 046-888-1222  
◎ 10:00 ~ 19:00 (水曜日定休) 🌐 <https://www.saitojut.com/>

加藤不動産が選んだ  
魅力的な三浦の物件例 **04**



視界いっぱい海と空  
最高の立地でひとり暮らし

三浦海岸駅まで歩いて10分。下水道完備のアパート。賃料1ヶ月分フリーレントも嬉しい。敷地内に駐車場があるのもポイント。海が見えてアクセスも両立している5万円以下の物件は希少。近くにはコンビニも美味しい飲食店も軒を連ねています。どの部屋からも海が見え、海を眺めながら料理できる物件は珍しい。



【物件DATA】  
三浦海岸駅徒歩10分 | 間取りは2DKで広さは33.12㎡ | 家賃48,000円 | 築年数は46年

三浦海岸駅前店からも三浦のいいところ発信中

加藤不動産

☎ 三浦市南下浦町上宮田 3387-14 ☎ 046-888-6418  
◎ 10:00 ~ 19:00 (毎週水曜日、第1日曜日、第3土曜日定休)  
🌐 <http://www.katou-fudousan.com/>

オーシャン不動産が選んだ  
魅力的な三浦の物件例 **05**



高台に立ち富士山を一望  
平家の古民家が400万円

観光地の三崎港まで歩いてすぐの高台にある平屋。海側の窓を開けると海も富士山も見える希少物件。土地と建物でこのお値段はすごい。リノベーションをして住むのもよし、コソコソDIYして自分だけの空間を作るのもよし。古き良き室内空間とタイル張りのかわいいお風呂も見逃せない。



【物件DATA】  
三崎東岡バス停徒歩3分 | 間取りは3DKで広さは65.12㎡ | 売買4,000,000円 | 築年数は不明

三崎港目の前の海風を感じる不動産屋さん

オーシャン不動産

☎ 三浦市三崎 4-8-14 ☎ 046-881-3066  
◎ 10:00 ~ 17:30 (日曜、祝日定休)

地元不動産屋さんが厳選!

魅力的な三浦の物件例を一挙公開

移住したくなったら地元の不動産屋さんに行ってみよう!  
三浦市内の不動産屋さん「移住者におすすめしたい物件」を選んでいただきました。

※すべて2021年3月時点の情報のため、物件と相場感を知るための参考としてご覧ください

神奈川住宅が選んだ  
魅力的な三浦の物件例 **01**



静かな環境&駐車場2台  
開放感抜群の戸建て

閑静な住宅街にある築浅の一軒家。近くには地元で長くお店をやっている飲食店やパン屋、惣菜屋もある生活しやすい人気エリア。トイレ2つ、敷地内に駐車場2台つきの穴場物件です。古い家が多い三浦市の中で、築16年のきれいな一軒家は珍しい。1階のリビングも、2階の寝室も抜群の日常で気分が上がります。玄関の天井は吹き抜けになっていて開放感があり、大きな下駄箱も魅力的。ひろいキッチンスペースは食器棚や冷蔵庫などを置くにも十分な広さがあります。カウンターキッチンになっているので複数人での食事も楽しいはず。三崎下町エリアにも近く、三崎の観光地まで歩いていくことができます。車持ちの方には特におすすめしたい物件です。



【物件DATA】  
天神町バス停徒歩5分 | 間取りは3LDKで広さは90.26㎡ | 家賃90,000円 | 築年数は16年

地元が三崎の社長が優しくお出迎え

神奈川住宅

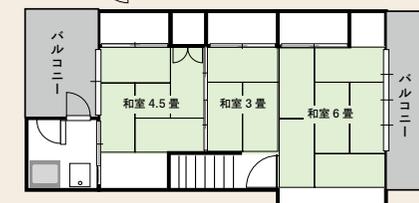
☎ 三浦市三崎町六合 303-7 ☎ 046-881-0252  
◎ 9:30 ~ 19:00 (水曜日、第2・4日曜日定休)  
🌐 <http://www.kanagawajutaku.jp/>

いわの不動産が選んだ  
魅力的な三浦の物件例 **02**



海まで徒歩10秒  
土間つきの店舗兼住居

三崎下町、北条湾が目前の店舗兼住居。下町の商店街を抜けて、くろば亭「仏陀の間」の目の前がこちらの物件。下町エリアには魚屋、肉屋、薬局、カフェなど、小さなお店が点在しています。お店を始めたい人にはぴったりな土間があり、小上がりの奥には広いキッチンスペースがあります。水回りもきれいなのがグッドポイント。室内一部を2021年1月にリフォームして大変きれいな状態で、2階も広く十分な住居スペースが確保されています。日常でも抜群で開放的な間取りも魅力的。ちょっとした屋上ベランダもついていて、洗濯物を干したり読書スペースにするのもアリかも。



【物件DATA】  
日の出バス停徒歩1分 | 間取りは4DK + 土間で広さは57.45㎡ | 家賃79,000円 | 築年数は不明

三崎下町の洗い屋に事務所を構える不動産オタク

いわの不動産

☎ 三浦市三崎 2-15-9 ☎ 046-874-8551  
◎ 10:00 ~ 19:00 (水曜日、第1・3火曜日定休)  
🌐 <https://iwano-re.com/>

移住者のお店 #01

自ら小麦を育て  
最高のパンを届ける  
三浦屈指の人気店

Yokosuka → Miura



「パン」  
充麦

横須賀から移住した藤山充洋さんが営む「充麦（みつむぎ）」。お店の扉を開けると大音量の音楽がお出迎え。DJでもある店主の藤山さんは、HIPHOPとパンをこよなく愛する。お店の特徴は、自分たちで育てた小麦を使っていること。種まき、収穫、脱穀、製粉という一連の流れを経て大切に育てられた小麦を使って毎日パンを焼いている。食べた瞬間に口いっぱい広がる“小麦の香り”に感動。

〒三浦市初声町入江 54-2  
☎ 046-854-5532  
◎7:00-15:00（火・水曜日定休・畑仕事時不定休）



休日になると「充麦」を目指して遠方からもたくさんの方が訪れる。夕方になると売り切れてしまうこともあるので、早めの時間帯に行くのがおすすめ

移住者のお店 #03

濃厚で奥深い  
飲み干したくなる  
豚骨スープが自慢

Miura → Yokosuka → Miura



「ラーメン」  
麺屋 岡一

横須賀から移住した畑岡潤さんが営む「麺屋 岡一」。横須賀のラーメン屋で修行し、横須賀で開業したのち、地元三浦でお店をオープン。家系ラーメンをベースに「和風とんこつ」「味噌とんこつ」とバリエーション豊かなメニューが人気。中太縮れ麺と肉感たっぷりのチャーシューが美味。テーブルの上にはいくつか調味料があるが、とくに揚げエシャロットがオススメ！

〒三浦市初声町入江 207-5 メゾン石橋 102  
☎ 046-845-9993  
◎11:00-14:30、17:00-21:00（日・月曜日定休）



和風とんこつ並（¥800）  
魚介出汁が濃厚なとんこつラーメン。岩のりがたっぷりとかかかって、麺とよく絡み和風な一品。濃厚なのにしつこくなく、スープまで飲み干したくなる美味しさ

移住者のお店 #02

地元で愛される名店  
コシの強いうどんは  
まさに讃岐の味

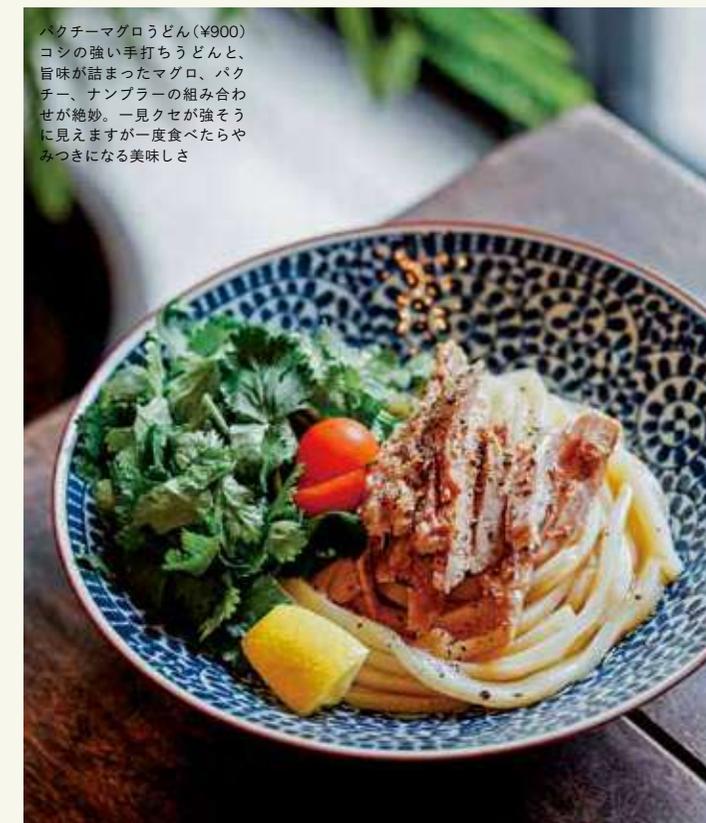
Yokosuka → Miura



「うどん」  
饅饨 はるかぜ

横須賀から移住した室越敦さんが営む「饅饨（うどん）はるかぜ」。讃岐のうどんを彷彿とさせるコシの強いうどんが特徴で、毎日手打ちで作っている。パクチーマグロうどんをはじめ、チーズうどんやカレーうどんなど、創作うどんも大人気！ そのほかこだわりのデザートや酵素ジュースなど、身体によくて美味しいメニューが自白押し。うどんに合う焼酎や日本酒も豊富に用意している。

〒三浦市三崎 3-5-1  
☎ 046-815-7224  
◎12:00-15:00（L.O14:00）、17:00-21:00（L.O19:00）  
（火・水・木曜日定休）



パクチーマグロうどん（¥900）  
コシの強い手打ちうどんと、旨味が詰まったマグロ、パクチー、ナンブラーの組み合わせが絶妙。一見クセが強そうに見えますが一度食べたらやみつきになる美味しさ

移住者のお店 #04

甘い風が港に吹いた  
手づくりドーナツは  
今や三崎の名物に

Tokyo → Miura



「ドーナツ」  
ミサキドーナツ

東京から15年前に移住した音楽プロデューサー藤沢宏光さんが立ち上げたドーナツ屋さん。今では三崎の名物スイーツとして大人気のお店に。すべて手作りの気持ちのこもったドーナツは季節ごとに種類を変え、毎日20種類のドーナツがショーケースに並び、パンのような食べ応えのあるドーナツで、不思議と何個食べても飽きない。手作りドーナツをぜひ全種類制覇してみてください。

〒三浦市三崎 3-3-4  
☎ 046-895-2410  
◎平日 11:00-17:00 土日祝 10:00-18:00（水曜日定休）※なくなり次第終了



鎌倉や逗子、葉山にもお店を展開する「ミサキドーナツ」。ここ三崎本店は工房併設なので、出来立てのドーナツを楽しめる。連休ともなると長蛇の列になるほどの人気ぶりだ。手作りならではの優しい味わいだ



# 夕日は昇る

大橋裕之

ボクの名前は  
田嶋優一

東京在住の  
30歳会社員

今から  
みなさんにとって  
どうでもいいことを  
言いますが

ボクは現在  
いきつけの喫茶店の  
店員さんに恋しています

彼女の名前は  
内田さやかさん  
(漢字は分からない)

ボクがお店に  
忘れていった小汚い傘を

追いかけてきて  
渡してくれたときの笑顔に  
ハートを見事に  
撃ち抜かれました

しかし半年お店に  
通いつづけているのですが  
いまだに世間話のひとつも  
できない状態です

そんなある日  
ボクはさやかさんに関する  
有力な情報を得ることに  
成功したのです

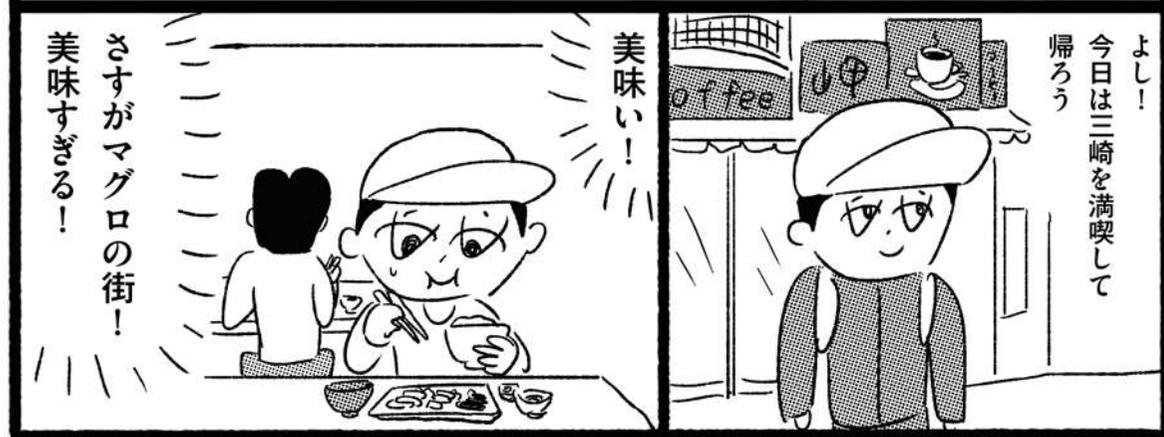
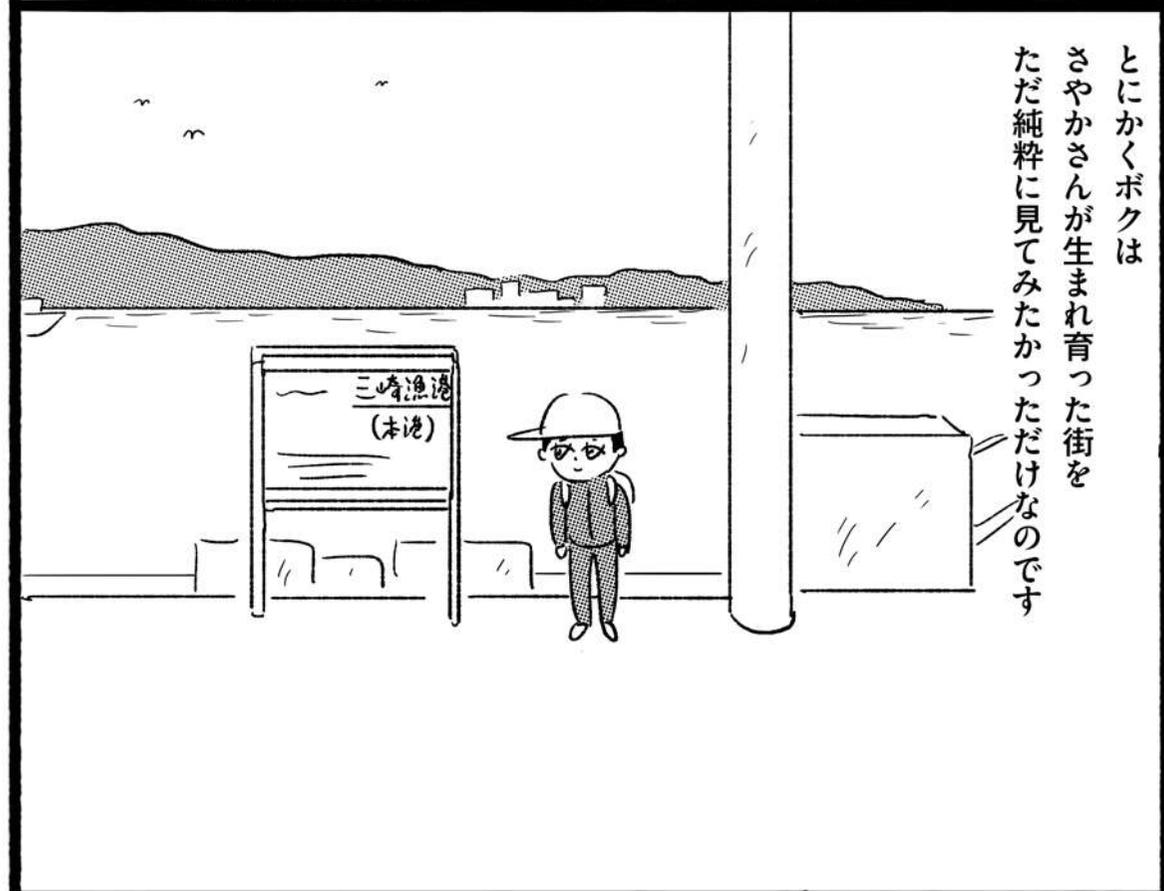
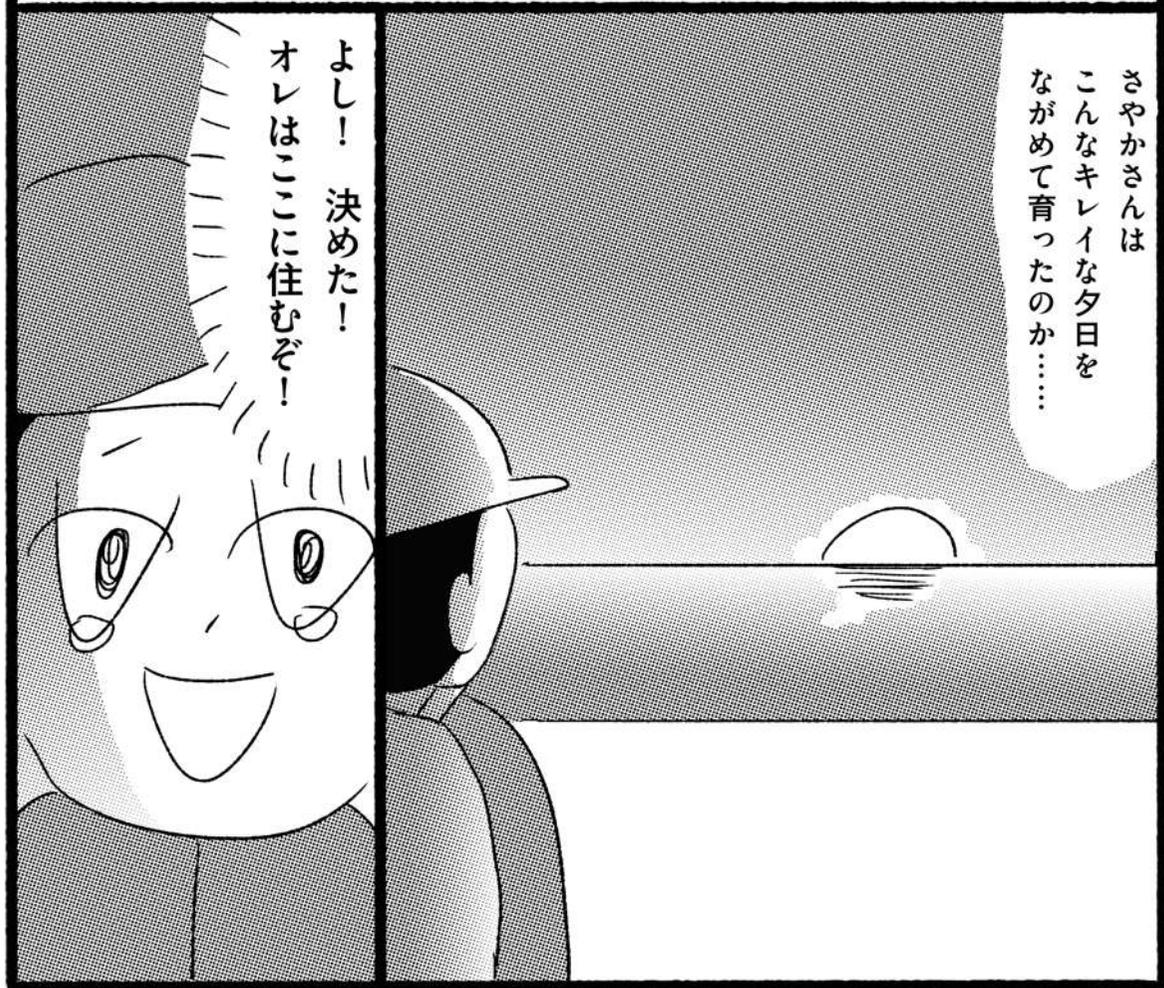
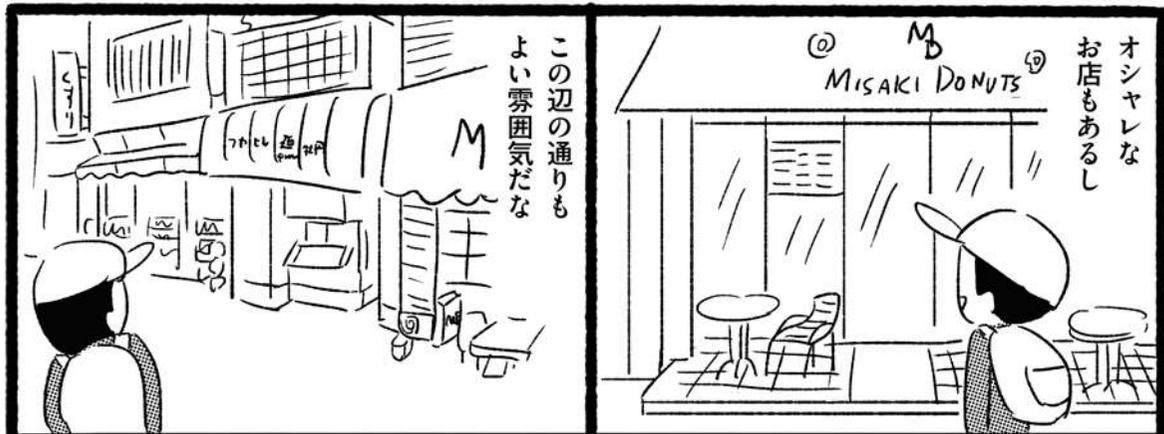
えー！三崎の！  
私実家が近所なんです！  
漁港の横の！

私  
あそこで見ると夕日が  
一番キレイだと  
思います！

みなさんくれぐれも  
誤解しないでください  
ボクはストーカーでは  
ありません

たださやかさんとの  
会話のいとぐちを  
必死で探している  
だけなのです！

Googlo  
三崎 漁港 夕日  
検索



最近仕事も  
ほぼりモートだし  
アパートの契約更新  
もそろそろだし



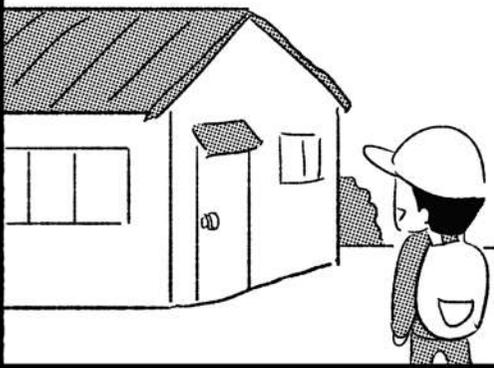
さつき調べたら  
家賃も安いし  
オレが東京にいる  
意味はひとつもない!



ボクはその足で  
不動産屋に行き  
物件を探し



内見してすぐさま  
契約を済ませた



今日は自分の中に  
眠っていた鬼のような  
行動力が火をふいて  
しまった



たまには  
こんな自分も  
わるくない

お!  
よさそうなやきとり屋さん  
発見!



美味い!



美味しいやきとり屋さん  
もあるし  
三浦市三崎は最高だな

お兄ちゃん  
観光?  
リュックなんか  
持って



あ:  
ええ  
まあ

ん?  
何のことかって?



正直に言います

三浦市三崎在住  
ということを武器にすれば



でも今日  
三崎港で夕日を  
目にした瞬間  
移住を決意しました



初めて会った  
おっさんと連絡先を  
交換した

ヤスって  
呼んでよ

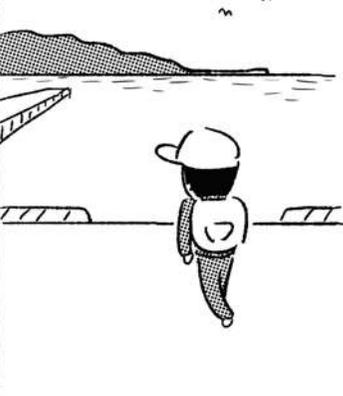


はい

早速おっさんの  
飲み友達もできたし  
オレはもうこの  
人間と言っても  
いいだろう!



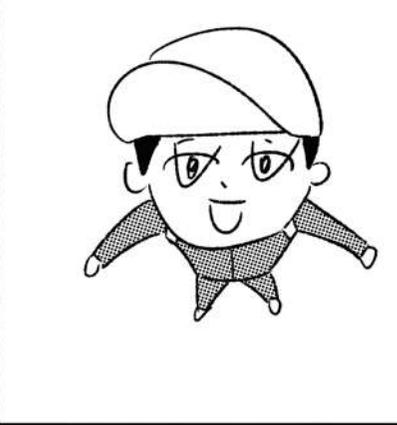
いや待て。  
あせるな  
数日間しっかり  
この地に体をなじませて  
より完べきな  
地元民を目指そう



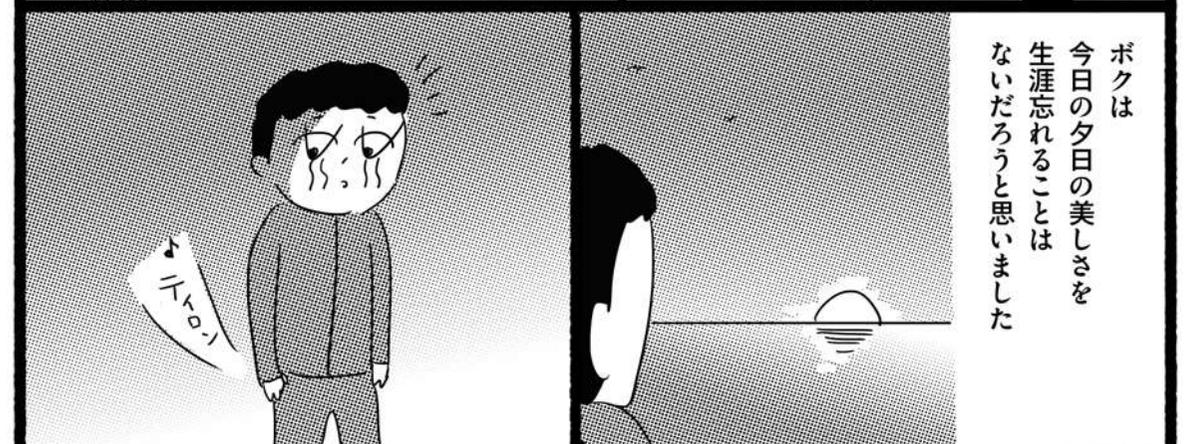
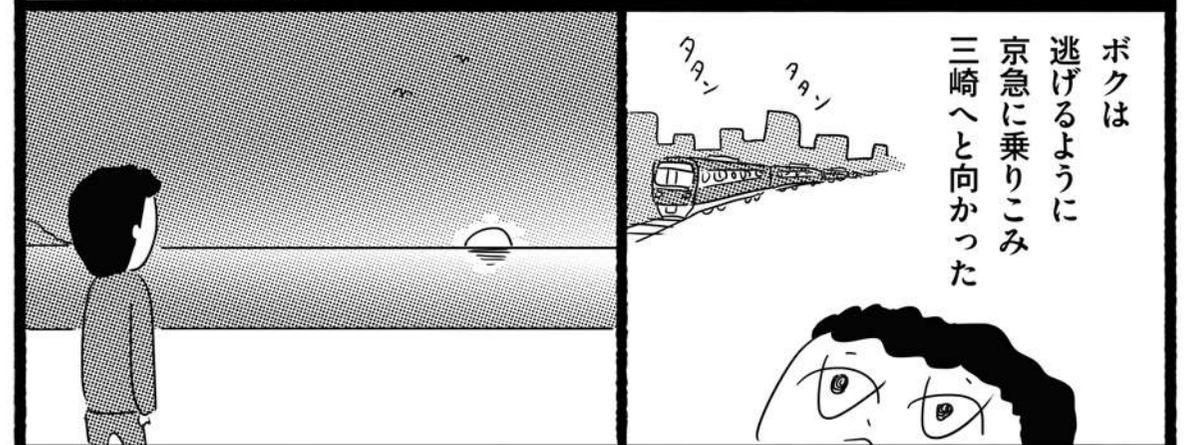
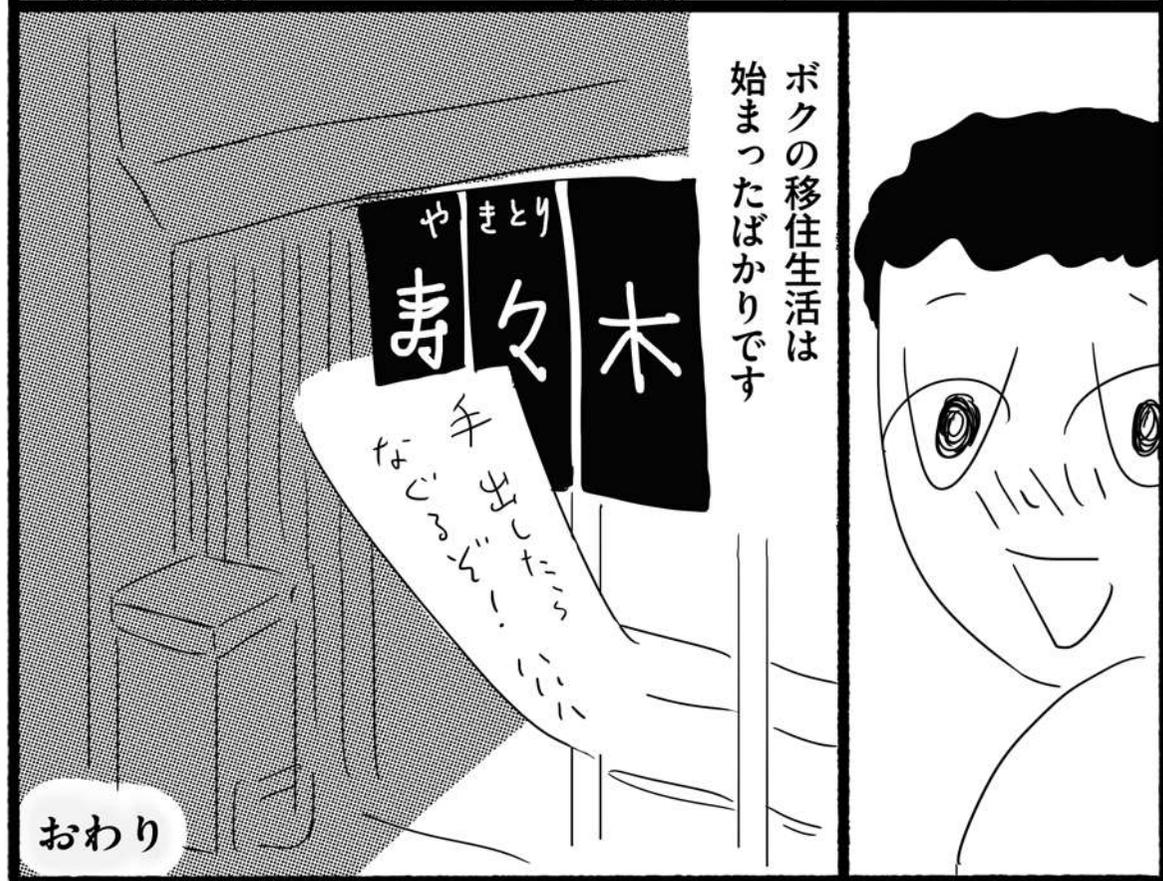
ボクは  
知れば知るほど  
この街が好きに  
なっていた



数日間のこの街での  
生活を経て機は熟した!









## トライアルハウスも運営 地元出身の店主が 移住を手厚くサポート

朝6時から、ほっと一息つける朝ごはん屋「あるべ」。店主の菊地未来さんは地元三崎で「MISAKI STAYLE」という移住・二拠点居住の相談、支援を民間事業として行う。「あるべ」の2階ではお試し居住ができるトライアルハウスも運営。今まで5組の移住希望者がお試し居住をして、4組移住という驚きの実績。実際に三浦三崎での生活を通して、地元民との交流を深めることで移住のハードルを下げてくれる。MISAKI STAYLEメンバーで、三崎銀座通り商店街にある「古道具 ROJI」でも移住相談所を開設。地元不動産屋との連携もスムーズだ。

### 朝めし あるべ

☎三浦市三崎 5-1-10 ☎046-876-8492  
 ◎6:00-10:00 (月・火曜日定休) ※営業後も相談受付可  
 🌐 <https://misaki-stayle.com/>  
 @ info@misaki-stayle.com

菊地さんは学生時代建築の勉強をしていたこともあり、建物や住居についても詳しい。2階のトライアルハウスは6畳の個室で共有スペースも使用可能。33,000円で気軽に三浦の生活を体験



この冊子も、もう終わり。最後に……  
移住相談できる公共・民間の窓口を伝えるね



## まずはココへ！ 三浦市役所移住相談 空き家バンクも活用

三浦市に移住したいと思ったらまずは市役所の政策課「移住相談窓口」へ。市の生活環境や仕事に関するなどを相談でき、関連する資料ももらえる。さらに三浦市では、空き家の有効活用を通じて定住促進などによる地域活性化を図るため、「空き家バンク」を実施している。空き家バンクとは、地方自治体が、空き家の賃貸・売却を希望する所有者から提供された情報を集めて、空き家をこれから利用・活用したい方に紹介する制度のこと。空き家バンクの物件は市のホームページで公開し、利用希望者を募っている。

### 三浦市役所 移住相談窓口

☎三浦市城山町 1-1 三浦市役所本館 2階  
 ☎046-882-1111 (代) ◎8:30-17:00 (平日のみ)  
 🌐 <http://www.city.miura.kanagawa.jp/seisaku/rju/>  
 @ seisaku0101@city.miura.kanagawa.jp



# 移住相談ができる場所



## 移住者の夫婦が営む 蔵書室カフェ「本と屯」 シェアオフィスも見学

三崎銀座通り商店街にある出版社アタシ社が営む蔵書室カフェ「本と屯」。2017年に逗子市から移住してきた30代の夫婦が営む蔵書室には約5000冊の本がずらり。気軽に立ち寄れてリアルな三浦移住の話や店主から聞くことができる。週末は観光客と地元民が入り交じる不思議な空間。2020年6月に三崎の滞在型シェアオフィス「TEHAKU」をつくり、三浦との二拠点居住をするクリエイターたちを支援している。三浦三崎の情報ウェブマガジン「goone」の制作、運営も行い、本と屯を拠点にさまざまな情報発信を行っている。

### 三崎港蔵書室 本と屯

☎三浦市三崎 3-3-6 ☎050-3592-4819  
 ◎10:00-19:00 (月曜、第2・4火曜定休)  
 🌐 <http://www.atashisya.com/>  
 @ minesingo@atashisya.com

漫画家の吉田戦車が描き下ろした暖簾がオープン目印。築90年以上の元船具店を利活用し店内では無料でアタシ社のふたりが集めた蔵書を読むことができる。三浦、三崎にまつわる出版活動も精力的に行っている



## 歴史ある山田屋酒店で お試し居住ができる じっくり三崎を味わって

三崎港目の前にある築100年以上、地元民も足繁く通う老舗の酒屋「山田屋酒店」。2階のスペースなどトライアルステイできる物件を複数所有している。トライアルステイとは三浦市への移住、あるいは二拠点居住希望者に対し、短期間のお試し居住を体験してもらうプログラム。市が東洋大学と連携して2015年度に開始。山田屋酒店は2018年から事業を受託。現在は自主事業として実施している。観光では知ることができない三浦の魅力や生活を体験してみよう。移住コンシェルジュであるスタッフの黄川田さんがさまざまな提案をしてくれる。

### 山田屋酒店

☎三浦市三崎 4-8-10 ☎046-881-3341  
 ◎8:00～20:00 (水曜定休)  
 🌐 [https://cfnets.co.jp/misaki/?page\\_id=3080](https://cfnets.co.jp/misaki/?page_id=3080)  
 @ kuroka02@gmail.com

山田屋酒店スタッフの黄川田さん。山田屋酒店の2階は通常ゲストハウスとして運営しているが、トライアルステイとしても利用できる。和室が2部屋あり、お風呂や水回りはフルリフォームされていて快適な空間





🔍 三浦市 移住

三浦市ではこれからも移住促進のイベントや移住情報の発信をしてまいります。  
情報は三浦市のホームページをご覧ください。

<http://www.city.miura.kanagawa.jp/seisaku/iju/>



発行 三浦市

企画 編集 制作 合同会社アタシ社

撮影 小野田陽一

表紙イラスト Noritake

装丁デザイン 岡崎智弘 (SWIMMING)

中面イラスト 坂本いくこ

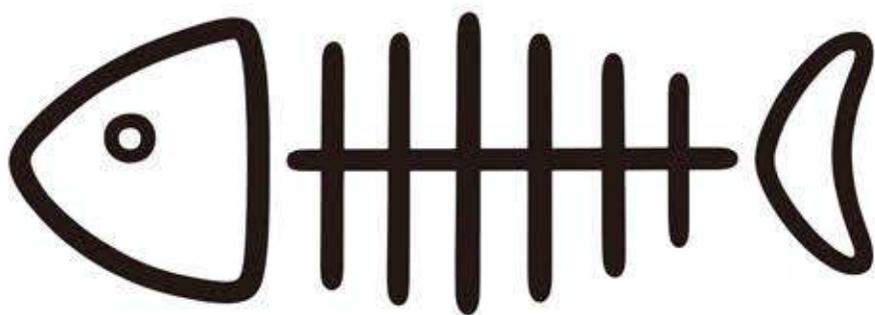
編集協力 青葉薫、古矢美歌

© 2021Atashisha.LLC / 三浦市

※本誌掲載のデータは2021年3月のものです。発行後にデータが変更になる場合がありますので、  
お出かけの際には電話などで事前に確認されることをオススメします。

※定休日は原則として年末年始、お盆休み、ゴールデンウィークを省略しています。

本誌は神奈川県川崎競馬組合が主催する「川崎競馬」の利益配分を活用した神奈川県市町村自治基盤強化総合補助金を活用しています。



「夕日に染まる町へ、自転車で行きたい」

駅に着くと潮風が香った

自転車で港を目指した

緑の丘を越えて坂道をくだると

目の前に海が広がった

海鳥の歌声が迎えてくれた

船が沖に向かった

小魚の群れが水面で跳ねると

釣り人が大きな魚を釣りあげた

なつかしい商店街で買い物をした

猫たちがあそんでいた

威勢のいい魚屋さんの声が響く

迷路のような路地を歩いた

子供たちがどこかに走っていった

気がつくと町中が真っ赤な夕日に染まっていた

—— あなたがふりかえってわらった

